# 集団としての大学女子軟式野球チーム
## —競技開始動機及び集団凝集性について—

阿　江　美　恵　子

## 緒言

競技スポーツでは、集団で行動することを要求される場合が多い。とくに集団でプレイしなければならない種目では、スポーツを行うことイコール集団で行動することである。集団行動の研究で著名なザンダー(1996、p１)は、「集団とは、互いに影響し合い依存しあう人々、つまり協力したり互いの期待に応えながら行動する人々の集まりである」と述べている。

さらに、新しい集団が結成されるときには、次の４つの状況が存在するという(ザンダー、1996, pp.1-4)。

1．集団に加わりそうな人々の環境条件や生活条件が不十分であったり、望ましい変革の機会が到来している状況。
2．まとめ役がもっとよい状況を想いつく。
3．集団活動を通じてもっとよい状況に到達できる、と成員が確信する。
4．その集団をとりまく諸条件が集団を形成してその活動に加わるよう、人々を駆り立てる。

新しい集団では特定の状況が存在するといえよう。

本研究は、女子大学生の競技スポーツとしては比較的歴史の浅い軟式野球という種目を対象にして研究を進めた。種目そのものの歴史は古いが、女子大学生が競技スポーツとしての野球(ここでは軟式)を行うようになったのはたかだか10年のことであった。従って、競技スポーツ集団としても新しく、上述の４状況は大学女子野球チームの結成に際しても存在したと考えられる。

近年の女子大学生の野球(軟式)大会は、神戸山手女子短期大学「マンヨーズ」と洗足学園魚津短期大学「フィッシャーズ」の２チームによる春秋定期戦がスタートであった(江刺・小椋、1994)。大学女子軟式野球全国大会は1998年で第12回を迎え、参加校は近年少しずつ増え続けている(1998年は29校)。参加者の競技力も少しずつ向上の兆しが見られるものの、ベスト４に勝ち上がるチームは５年ほど全く同じで、１，２回戦では大差がつくことも多く、各チームの競技力や選手の競技観は、他の競技スポーツに比較してバラツキが大きいように思われる。また中には大会の時だけ結成するチームもあり、いわゆる競技スポーツと呼べない集団も見られるというのが現状である。

女子の競技スポーツは男子と同様に高度化の様相が顕著である。そのような状況の中で、野球という種目が女子のスポーツとしてどこまで市民権を得るかはまだまだ未知数である。大学生の大会を見ると、競技スポーツという意識の強くない学生も多く、彼らの競技スポーツに対する意識を知ることは、野球の発展だけでなく大学生の女子スポーツ集団のあり方を考える資料を提供すると考えられる。

そこで本研究は、全国大会出場の女子大学生を対象にして野球チームの成員の野球に対する意識を競技成績の違いをもとに探った。集団結成の状況とその後のチーム凝集性を検討し、競技スポーツでの集団の状況についての知見を得ること、さらに女子大学生とスポーツの関わりを心理学的に明らかにすることを目的とした。

## 方法

1. 対象：全国大学女子軟式野球大会出場の
　12チーム、合計156名
　(ベンチに入ることのできる最大24名に限定)。

平均年齢19.5歳。

2. 調査日時:1997年8月23日～28日
(富山県魚津市)

3. 調査内容:チーム目標(5項目)、競技開始動機について(9項目のうち1項目の強制選択)、競技生活への満足度3項目(5段階評定)、2対比較法によるスポーツと生活の比重の評価(9項目)、チームの集団凝集性測定尺度(阿江、1986)など。尚、調査に用いた調査用紙は最後に添付した。

## 結果及び考察

### 1. 全対象チームの平均的な集団状況

対象者の軟式野球の経験年数の平均は1.7年であった。チームの競技目標は6チームは全国大会でのベスト4以上をあげたものが成員の過半数以上おり、5チームは参加することに意義を感じていた(1チームは半々の意見であった)。つまり同一チーム内でも目標が異なる人間を含むことがわかった。チームの人数は、12チームのうち2／3にあたる8チームが20人以下と野球チームとしては小規模であった。

練習への満足度を「非常に不満」の1から、「非常に満足」の5まで5段階評定尺度上で判定させると、練習内容の平均は3.6点、練習日数3.7点、練習休みの回数3.8点とそれほど満足していないことが示された。練習日数は週平均3.0日であった。多くの競技スポーツで週平均の練習日はもっと多いことを考えると練習日数が多くて満足度が低下したとは考えにくいが、これについてはさらにチーム別の検討が必要であろう。

図1は、スポーツのために注意していることを9項目について5段階評定尺度で評価させたものである。技能、体力、野球知識、体重の増加への関心が高く、食事、禁酒への関心が薄かった。また、ルールへの関心はルールを知らない選手もいたので、肯けるものであった。

野球は男子のスポーツというイメージが強く、また高校以下では女子の独立したチームの存在すらほ

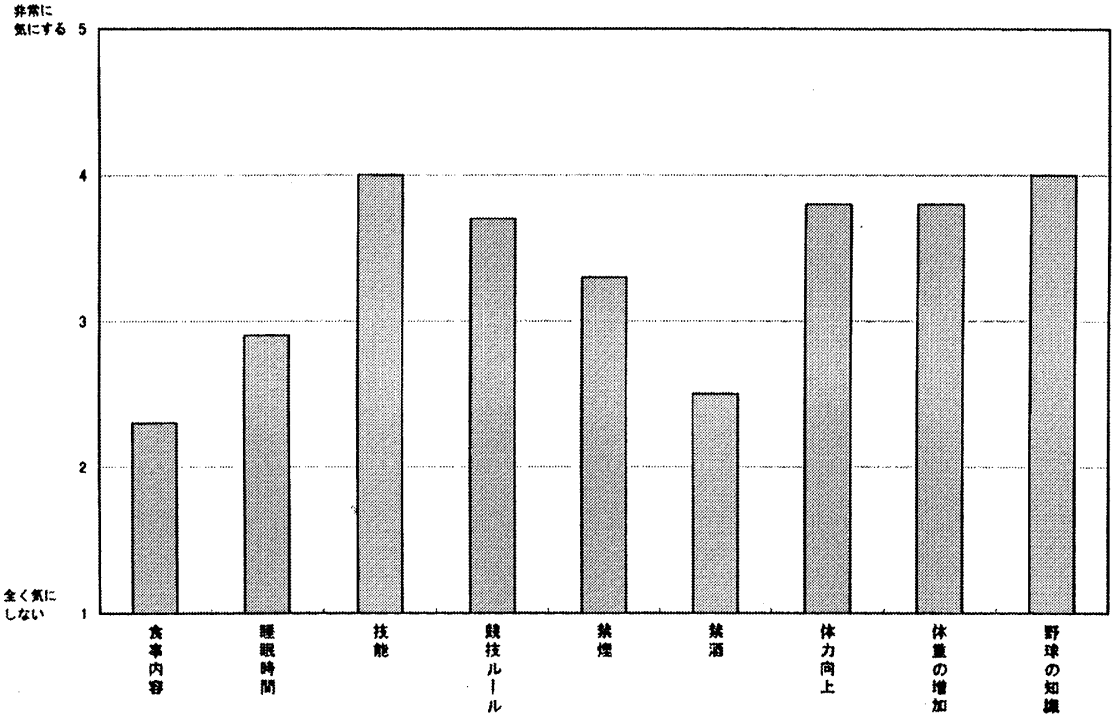


図1. スポーツのために注意していること

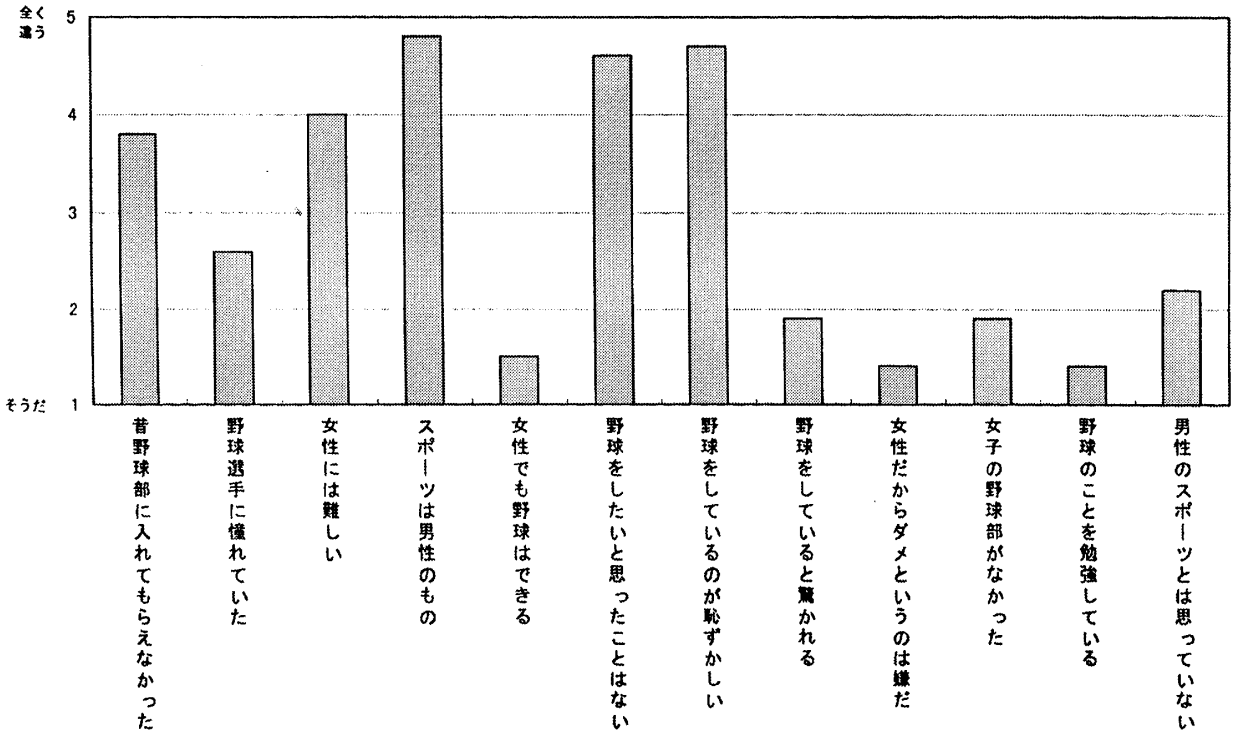


**図2. 野球に対する意識**

とんど聞かれない。そのことをふまえ、野球についての意識を「そうだ」から「全く違う」まで5段階評定させたのが図2である。「女性には難しい」、「スポーツは男性のもの」といった男性性を示した記述には否定的で、「野球選手に憧れていた」、「女性でも野球はできる」、「女性だからダメというのは嫌だ」、「野球を勉強している」、「男性のスポーツと思っていない」、という野球を女性が行うことを肯定する項目の肯定度が高く、積極的に野球に関わっていることがわかった。

しかし、各チームをそれぞれ見てみると、試合もままならないほど人数の少ないチームも見られた。従って、チームに参加している人間は積極的だが、女子学生全体での野球に対する関心はあまり高くないことが推測される。

図3は野球を開始した動機である。1位「野球をやりたかった」(27.3%)、2位「今まで行っていたスポーツに似ているから」(23.4%)、3位「今までやったことがないスポーツをしたかった」「何かスポーツをしたかった」「友人に誘われた」(11%)で、野球自体への関心が伺える。

図4は、スポーツ場面と学生生活で葛藤しがちな項目を一対比較法によって比較させ、その平均点を算出してプロットしたものである。「仲間との友好」が「技能の上達」や「試合に出ること」、「チームの勝利」より大切にされていた。この点で対象としたチームは競技スポーツを行っているという意識があまり高くないと言えるであろう。

集団凝集性は「親密さ」「チームワーク」「貢献の認知」「魅力」「コーチング評価」の5下位尺度ごとにチームごとの平均得点を算出した。図5は、各尺度の項目合計点を%で示したものである。つまり「親密さ」得点は最高56点で、チームの平均点が56点の何パーセントかを示したもので、他の尺度も同様である。ここでも「親密さ」「チームワーク」「魅力」「コーチング評価」の得点はどのチームも高く、集団の凝集性の基盤が「仲間関係」であることが推測された。

野球の指導者の存在については、12チーム全てに指導者がおり、そのうち女性の監督は2名のみであった。男子学生が監督やコーチを務めるチームも見

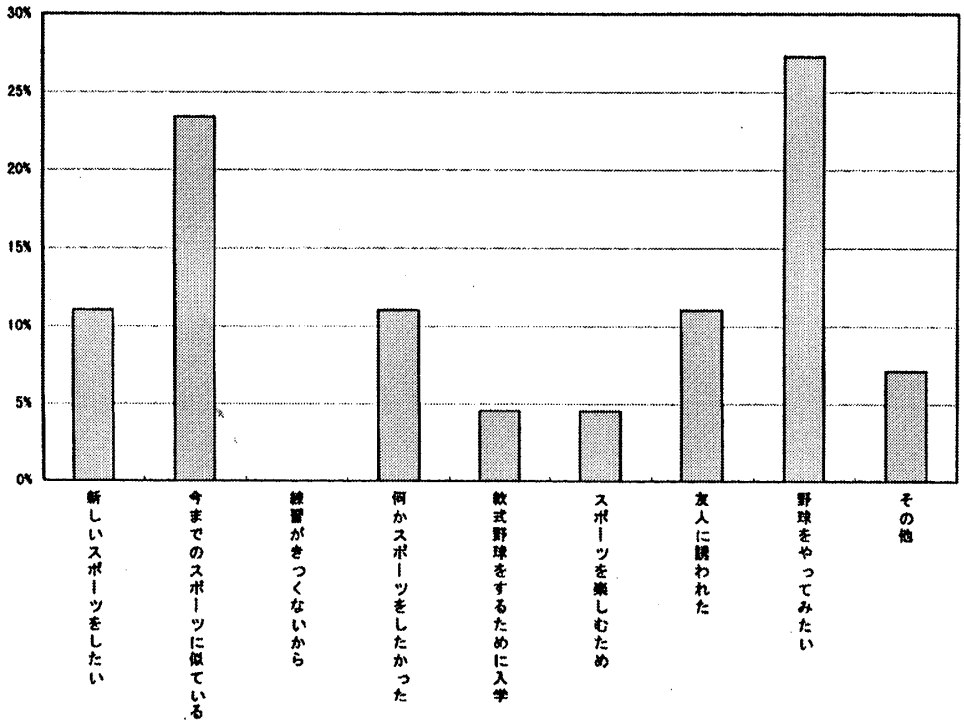


図3. 競技を開始した動機

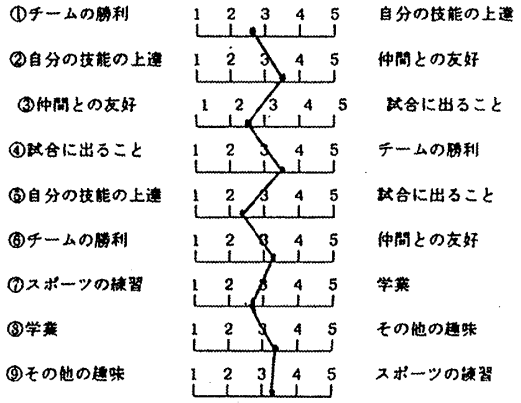


図 4. 大切さの一対比較

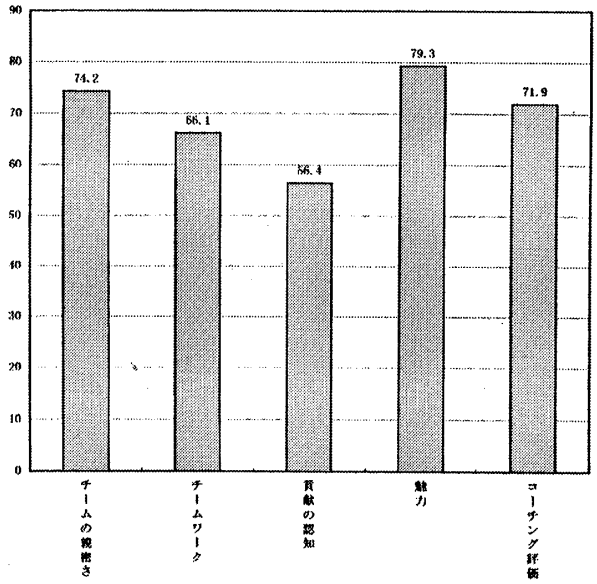


図5. 凝集性の5尺度の得点の割合

られたが、女性が指導やチームの運営にどの程度参加しているかについては今回調査しなかったので不明である。

しかし、極端な監督主導のチームも見られた。そうなると、学生の自主的な活動としての「野球」チームという考え方は十分ではないであろう。「女性が野球をする」という話題だけが先行するスポーツ集団形成の状況といえるのかもしれない。

## 2．競技成績の上位群と下位群の比較

競技成績による集団状況の違いを比較するために、ベスト4まで勝ち進んだ3チームを成績上位群（N＝61、以後上位群という）、一回戦敗退の3チー

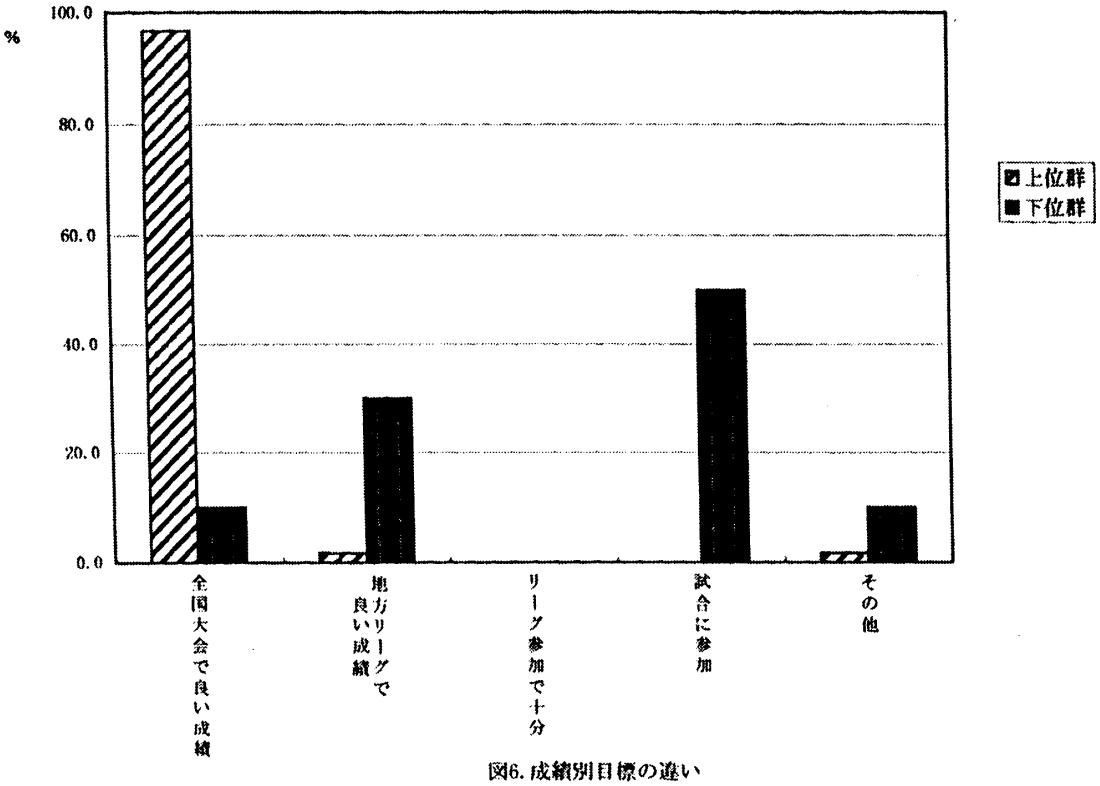


図6. 成績別目標の違い

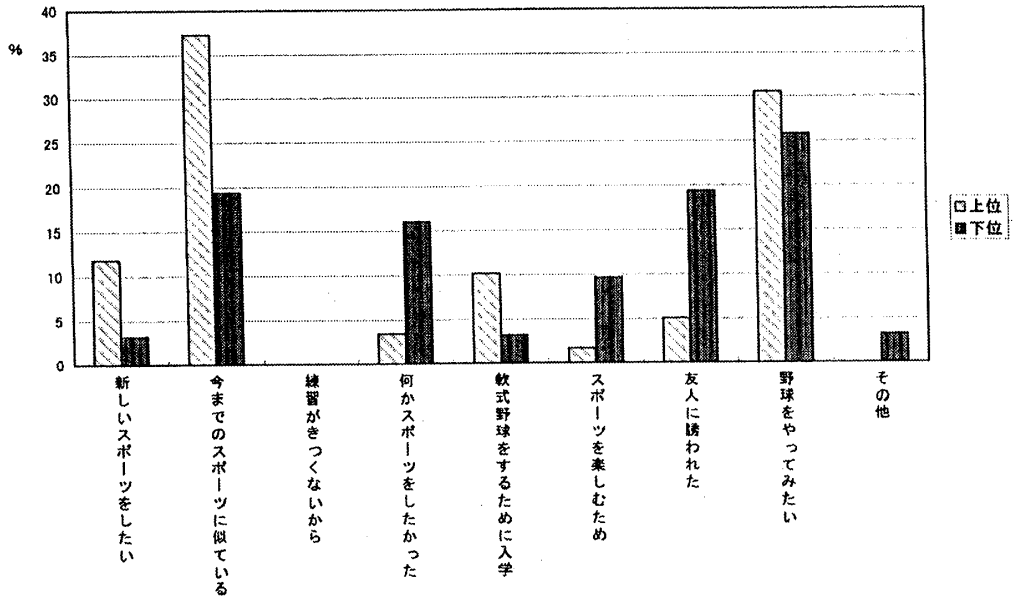


図7. 成績別の競技開始動機

ムを成績下位群とし（N＝31、以後下位群という）、両群の結果を比較した。

競技経験を平均経験年数で見てみると、上位群2.1年、下位群1.4年とともに競技スポーツの経験年数としては短いものであったが、統計的に有意な傾向が認められ（t＝1.9、P＜0.1）、上位群の方が経験年数は長かった。この年数は大学入学後に野球を開始するということを明らかに示しており、とかく長くなりがちな他の競技スポーツの経験年数と比べて競技性の低さが指摘できる。

図6は、成績別の目的意識の違いについての割合を示したものである。統計的にも両群は有意な差が

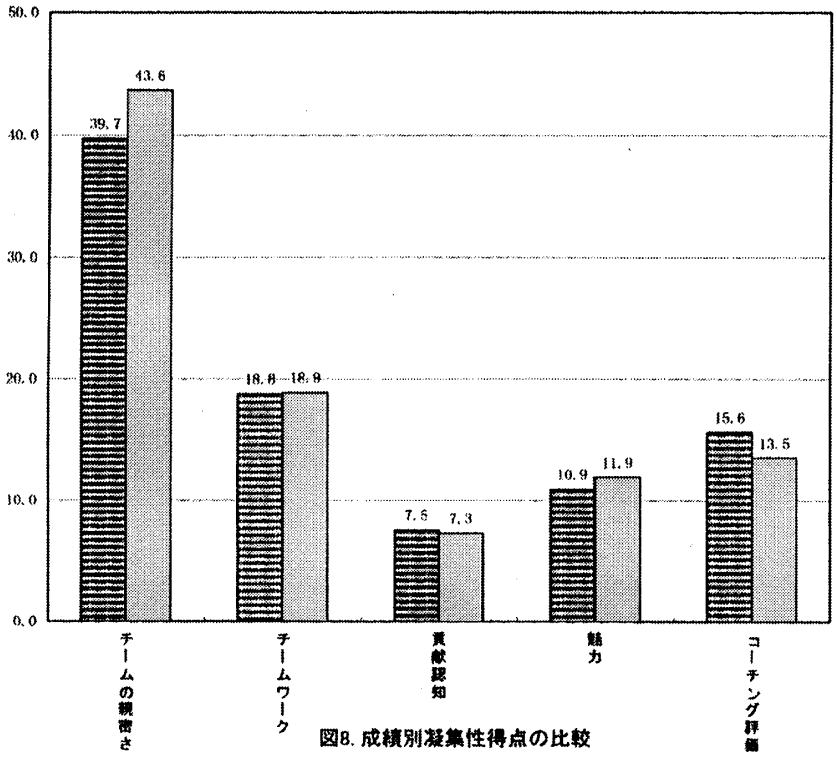


図8. 成績別凝集性得点の比較

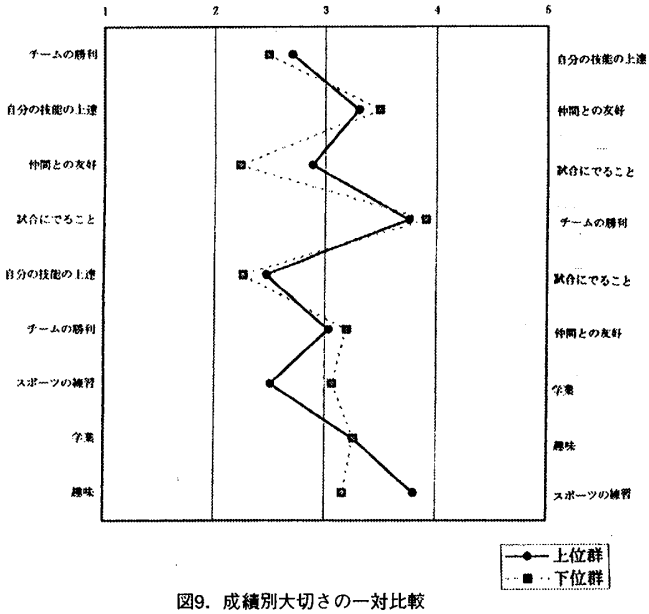


図9. 成績別大切さの一対比較

認められ（$\chi^2$=70.6、P＜0.01）、上位群は高い競技成績を目的とし、下位群は試合に参加することを目的とすることが示された。

図7は上位群と下位群の競技開始動機を集計したものである。上位群では競技の継続性が大きな動機になり、下位群ではスポーツを楽しむという動機も多かった。両群の動機の違いは統計的にも認められた（$\chi^2$=19.0、P＜0.01）。競技力による開始動機に違いがあると言える。競技継続と言うのは、中高校でソフトボールを行ってきた者が、大学で類似の野球を選択したもので、彼等の意識では「同一種目の継続」と考えているのである。また、ここでも対象者は野球自体への関心が高いと言えるであろう。

図8は集団凝集性の得点を成績別に示したものである。「チームの親密さ」（t＝1.94, P＜0.1）、「コーチ評価」（t＝2.59、P＜0.05）の2尺度で統計的な有意差が認められ、下位群のほうがチームは親密で、上位群のほうがコーチ評価は高かった。

競技成績と凝集性の関係については多くの研究が見られる（Carron, A. V., 1988；ホッグ、1994）。「コーチング評価」尺度がチームの競技成績と関連が深かったということは、成員が成績とコーチの指導を結びつけて考えていることを示すものであろう。「親密さ」と「魅力」尺度が成績下位群で得点が高いという傾向は、そのチームが「競技を目的とする」か「人間関係を目的とする」かという集団の目的の違いを示すものと考えられ、これは過去の阿江（1985）の結果とも一致するものであった。

図9は項目の一対比較によって、スポーツ活動で

大切に考えていることを比較した結果を成績別に算出したものである。「仲間との友好—試合に出ること」では下位群が友好をより大切と考え（t＝3.23、P＜0.01）、「練習—学業」では上位群が練習をより大切と考え（t＝2.76、P＜0.01）、「趣味—練習」では上位群が練習のほうをより大切と考えていた（t＝2.94、P＜0.01）。ここでも競技成績の違いによって、スポーツをどのように捉えるかが異なることが示された。下位群は勝利を大切に考えるものの練習を重視していないのである。しかし、勝利か仲間かにはちょうど中間という結果が得られ、成績上位チームでも仲間の存在が重要であることが示された。

### 3．スポーツ集団としての野球チームの発展

集団成員の競技経験年数の短さから、集団としての安定性やチームの継続については、問題がみられるようだ。そのことは、チームメンバーの減少によって大会参加が不可能になるチームが毎年出現することや他の種目から借り出されたメンバーを加えて試合をするチームがあることから明らかである。

チームに加入している成員の目的意識は成績によって違いはあるものの野球への強い関心と言う点では一致していた（図３）。ただし一般の多くの女子学生を野球というスポーツに関わらせるには環境が十分ではないと考えられる。共学の大学では野球場を二面持つ施設のゆとりはないだろうし、あったとしても野球は従来男性のスポーツであったため男子に占有されているに違いない。また、女子大では女子大ゆえに野球場がないというところも多いかもしれない。施設を保有する大学に女子野球大会の存在を知らせればチーム数の増加を期待できるであろう。

指導者主導（動機ではその他に含まれ、大会のためにチームを即席に作るという形態）や野球を行うために大学に入学したりという状況は、集団を形成するには必要である（ザンダー、1996、p.3）。

中高ではソフトボール部が女子の運動部としてたいてい存在している。類似種目の継続という観点でも野球の存在は意味があるであろう。

集団成員がどれくらい技能の向上や成績向上に関心があるかは競技成績により違いが見られた。スポーツ集団であるからにはスポーツを行うことが目的である。しかし、自らが参加していても競技スポーツ意識が明白ではないチームは「寄せ集め」かもしれない。大学生がスポーツに取り組むというのは中高校生がスポーツに取り組むのとは意識が異なるはずである。そういう意味では集団の凝集性がそれほど高くなく、チームのまとまりが競技集団としてそれほど強固ではないと言えそうである。

成績上位チームと下位チームの意識の違いは、野球大会の存続、発展に問題を残すと考えられる。特定チームの上位進出、チーム間の接触の少なさは集団間の葛藤を生起しやすいであろう。葛藤を減じるには成員の目標が類似しているほうがよいことが示されており（ザンダー、1996）、各チームのスポーツ観の成熟が待たれる。

集団の形成等については、さらに研究を継続して明らかにしたいと考えている。

## まとめ

以上をまとめると以下のことがわかった。

1.チーム目標は、「競技成績の向上」と「参加に意義」が半々であった。
2.主要な競技開始動機は「野球自体への関心」つまり内発的動機であったが、競技成績によって動機が異なっていた。
3.日常生活とスポーツとの重要さなどの比較では、勝利よりも仲間との関係、学業よりもスポーツが大切にされた。しかし成績別で結果が異なった。
4.集団凝集性では、競技成績に関連する尺度の得点が低く、人間関係に関する尺度得点が高かった。
5.成績別の集団意識の違いは、野球集団全体の発展という見地ではマイナスの要素がみられた。

**付記**

本研究は日本体育学会第49回大会（1998年10月愛媛大学）において口頭発表したものに加筆修正をし

たものである。

また本研究は、平成10年度文部省科学研究費基盤研究(C)課題番号08680154(研究代表者阿江美恵子)を得て行われた。

## 文献

1) 阿江美恵子(1985)集団凝集性と集団志向の関係、および集団凝集性の試合成績への効果. 体育学研究 29-4:315-23.
2) 阿江美恵子(1986)集団凝集性の測定尺度の再検討. スポーツ心理学研究 13-1:116-118.
3) Carron, A. V,(1988)Group dynamics in sport. Spodym publishers: London, Canada. pp.161-174.
4) 江刺正吾・小椋博編(1994)高校野球の社会学. 世界思想社:京都. pp.71-75.
5) ホッグ:廣田君美他 監訳(1994)集団凝集性の社会心理学. 北大路書房:京都. pp.171-173.
6) ザンダー:黒川正流他訳(1996)集団を活かす. 北大路書房:京都.

## 資料1-1、軟式野球選手に関する調査

### 軟式野球選手に関する調査

記入上の注意
・所属（3）
学生の場合は学校名と学年を記入して下さい。
・競技名、種目、ポジション（5、6）
例のように、競技名のところへは現在行っているスポーツの名称を、種目・ポジションのところへはそのスポーツでのより細かい種目名やポジションを記入して下さい。
・経験年数（7）
（5）で記入した競技についての経験年数を記入して下さい。
・集団の人数（9）
当てはまる数字に○をつけて下さい。

1．性別　男・女　　2．年齢　＿＿＿歳
3．所属　＿＿＿＿＿＿　4．調査年月日　平成　年　月　日
5．競技名　＿＿＿＿＿＿　6．種目・ポジション　＿＿＿＿＿
（例）陸上　やり投げ
サッカー　フォワード

7．競技経験年数＿＿＿＿＿　年
8．あなたがここで記入したスポーツでこれまで出場したことのある、もっとも高いレベルの大会は下のどれですか？その番号を下の□の中に記入して下さい。（出場経験のない人は記入しないでください）

□

（1）外国で行われた国際大会　（2）国内での国際大会
（3）全国大会　（4）地域（ブロック大会）
（5）県・（都・道・府）大会　（6）地区（市・町・村）大会

9．あなたの所属しているスポーツ集団の人数。（ひとつ○をつけて下さい）
11—20人、21—30人、31—40人、41—50人、50人以上

10．過去の競技歴（主に行った種目名）
小学校（　　）　中学（　　）
高校（　　）

1．あなたの所属しているチームは次のどれを目標としていると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけて下さい。

（　）全国大会での良い成績（ベスト4以上）
（　）地方リーグでの上位の成績（3位以上）
（　）リーグへの参加（勝敗はあまりこだわらない）
（　）試合に参加することに意義がある
（　）その他（具体的に　　）

2．練習日数は何日ですか。

シーズン中　一週間平均（　）日　一日に約（　）時間
シーズンオフ（11月～3月）　練習なし
あり
月～　月　一週間（　）日
月～　月　一週間（　）日
月～　月　一週間（　）日

3．試合にはどれくらい出場したことがありますか。○を一つ（　）につけて下さい

（　）いつも先発出場する　（　）時々出場する
（　）たいてい出場する　（　）たまに出場する
（　）出場したことはない

4．軟式野球を始めた動機は何ですか。一番あてはまる理由の（　）に○をつけて下さい。

（　）今までやったことのない新しいスポーツをしたかった
（　）今まで行っていたスポーツに似ているから
（　）練習がきつくないから
（　）何かスポーツをしたかった
（　）軟式野球をするために大学に入学した
（　）スポーツを楽しめそうだから
（　）友人に誘われた
（　）野球をやってみたかったから
（　）その他 …（自由に　　）

## 資料1-2

5．野球は男性のスポーツというイメージが強いですが、それについてどのように考えていますか。当てはまる数字に○をつけて下さい。

| | そうだ | | | | 全く違う |
|---|---|---|---|---|---|
| 昔野球部に入れてもらえなかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 野球選手に憧れていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 女性には難しいと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| スポーツは男性のもの | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 女性でも野球はできる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 野球をしたいと思ったことはない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 野球をしていることが恥ずかしい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 野球をしていると驚かれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 女性だからダメというのは嫌だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 以前は女子の野球部がなかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 野球のことを勉強している | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 男性のスポーツとは思っていない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

その他に野球をしていてよかったこと、不満に思ったことがありましたら自由に書いてください。

（　　）

6．現在の競技生活にどれくらい満足していますか。あてはまる数字に○をつけて下さい。

| | 不満 | | | | 満足 |
|---|---|---|---|---|---|
| 練習内容 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 練習日数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 練習休みの回数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

7．競技スポーツを行っていて、次のことにどれくらい注意していますか、あてはまる数字に○をつけて下さい。

| | 全く気にしない | | | | 非常に気にする |
|---|---|---|---|---|---|
| 食事内容 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 睡眠時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 自分の技能 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 競技ルール | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 禁煙 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 禁酒 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 体力の向上 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 不必要な体重の増加 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 野球に関する知識 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

8．軟式野球というスポーツは、あなたの生活の中でどのような位置を占めていますか。右と左の項目を比較し当てはまる数字に○をつけて下さい。

| 最も大切 | やや大切 | どちらともいえない | やや大切 | 最も大切 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

| | | |
|---|---|---|
| ①チームの勝利 | 1 2 3 4 5 | 自分の技能の上達 |
| ②自分の技能の上達 | 1 2 3 4 5 | 仲間との友好 |
| ③仲間との友好 | 1 2 3 4 5 | 試合に出ること |
| ④試合に出ること | 1 2 3 4 5 | チームの勝利 |
| ⑤自分の技能の上達 | 1 2 3 4 5 | 試合に出ること |
| ⑥チームの勝利 | 1 2 3 4 5 | 仲間との友好 |
| ⑦スポーツの練習 | 1 2 3 4 5 | 学業 |
| ⑧学業 | 1 2 3 4 5 | その他の趣味 |
| ⑨その他の趣味 | 1 2 3 4 5 | スポーツの練習 |

9．あなたの所属しているスポーツチームについてどのように感じていますか。各番号の記述に対して右の欄の１から７までの当てはまる数字のところに○をつけて下さい（記入もれのないように注意して下さい）。

| | 全く違う 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 非常にそうだ 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1．チームに対して友情を感じ満足している | | | | | | | |
| 2．チーム内にもめごとがたくさんありお互いにうまくやっていけない | | | | | | | |
| 3．チーム内は親密であると思う | | | | | | | |
| 4．チーム活動以外でも、メンバーはお互いにうまくやっていける | | | | | | | |
| 5．メンバー間の人間関係は良いと思う | | | | | | | |
| 6．チームメンバーはお互い強い仲間意識をもっている | | | | | | | |
| 7．チーム内の人間関係が好きである | | | | | | | |
| 8．チームメンバー間のコミュニケーションは少ない | | | | | | | |
| 9．チームのチームワークは良いと思う | | | | | | | |
| 10．試合で負けていても、チームはしっかりとまとまっている | | | | | | | |
| 11．自分のチームは試合ではすばらしいチームワークを発揮する | | | | | | | |
| 12．メンバーは皆チーム内での自分の役割を自覚している | | | | | | | |
| 13．勝つためにまとまることのできるチームである | | | | | | | |
| 14．チームのメンバーであることに誇りを感じない | | | | | | | |
| 15．あなたの役割やチームへの貢献はメンバーから十分に認められている | | | | | | | |
| 16．あなたの役割やチームへの貢献はコーチングスタッフから十分に認められている | | | | | | | |
| 17．今のチームのメンバーであることは非常に価値がある | | | | | | | |
| 18．今のチームのメンバーであることに大変誇りを感じている | | | | | | | |
| 19．チームのチームワークは良くないと思う | | | | | | | |

10．指導者（監督やコーチ）についてはどのように感じていますか。

①定期的に指導する指導者はいますか。　ＹＥＳ・ＮＯ

②１でＹＥＳと答えた方のみ　指導者の性別は？　男性・女性
指導者は何人いますか　（　　）人

中心的な指導者について以下の３項目に５と同様に答えて下さい。

| | 全く違う 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 非常にそうだ 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20．コーチの指導方法は良いと考えている | | | | | | | |
| 21．試合で必要な作戦、役割、手続きはコーチから十分に与えられている | | | | | | | |
| 22．コーチの作戦が理解され、達成されるまで十分に訓練されていると思う。 | | | | | | | |

以上で質問は終りです。この調査は、研究以外には決して用いませんし、統計的に処理しますので、個人に迷惑のかかることはありません。
ご協力ありがとうございました。

東京女子体育大学体育心理学研究室